

## 研究ノート

# 山口県内における総合型地域スポーツクラブに関する考察 ークラブ自慢とクラブ運営に関する自由意見に着目してー

○岡崎祐介\*1 鳥山 稔\*2 福田一儀\*1

キーワード：総合型地域スポーツクラブ、クラブ運営、自由記述、KJ法

## 1 はじめに

### 1-1 総合型地域スポーツクラブの研究動向

総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）は身近な地域でスポーツに親しむことができるスポーツクラブとして、スポーツ振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たすことが期待されている。近年では、教員の働き方改革のひとつとして注目されてきた部活動の地域移行における子どもの新たな受け皿として、地域における役割やその可能性がより重要視されてきている。

文部科学省が総合型クラブの育成を開始した1995年以降、総合型クラブや会員を対象にした研究も増加してきた。例えば、藤田・吉田（2012）は、総合型クラブが地域住民に与える効果について、総合型クラブの会員への定量的調査を元に検討を行っている。同研究では、「交友範囲」、「健康状態」、「スポーツ技能」、「スポーツへの関心」、「地域社会活動」への参加意欲について調査を行っており、総合型クラブと関与することによって、『「交友範囲の拡大」「健康状態の改善」「スポーツ技能の向上」、「スポーツへの関心の高まり」の効果を感じ』することを明らかにしている。また、他にも会員のライフスタイル（井澤・松永, 2014）や地域愛着（井澤・松永, 2023）、クラブ運営スタッフのオーナーシップ（岡村・富山, 2019）、組織文化とスポーツ指導者の組織コミットメント（高松・山口, 2019）など、多角的な視点からの定量的な研究は行われてお

り、総合型クラブの会員や運営スタッフの現状把握は進んでいるといえる。また、西村・作野（2020）や田島ほか（2022）が行っているように、総合型クラブが抱える課題の解決や円滑な経営に関する示唆を定性調査から得ようとする研究も存在する。加えて、過去には炭谷（2012）が、総合型クラブ研究をレビューする中で、定性的な視点に立ち、総合型クラブの問題点を整理する研究の必要性を指摘しており、『参与観察やインタビューといった質的手法によるデータ測定とその分析に基づいた仮説生成型研究が求められる』と述べている。このような主張は中西ほか（2011）でも指摘されており、定性調査の不足や研究の必要性が長らく議論されてきた。

近年では、上述した通り、定性的な視点から総合型クラブの経営に関する示唆を得る研究が行われつつあるものの、その数は依然として限られている。運営方法や形態が組織ごとに異なる総合型クラブにおいては、定性的なアプローチを用いて各組織の現状を詳細に把握し、その課題に即した運営を行うことが一層求められている。

### 1-2 山口県内における総合型クラブの現状

山口県における総合型クラブでは2024年10月時点で53クラブ（設立準備中を含む）が確認でき、それぞれの地域の特徴に応じて多様な活動を展開している。山口県内のクラブを対象とした研究では、得本（2017）は大学を拠点とした総合型クラブである「コミュニティクラブ東亜」の現状や課題から持続可能なクラブづく

\*1 至誠館大学 現代社会学部

\*2 大阪成蹊大学 経営学部

くりについて検討している。また、岡崎ほか（2021）は同じく大学を拠点とした総合型クラブである「至誠館クラブ」を対象として会員の特性や満足度、活動成果を分析し、今後のクラブづくりについて検討している。さらに、岡崎ほか（2024）による山口県内の総合型クラブの現状と課題をまとめた研究では、山口県内の総合型クラブは部活動の地域移行の受け皿としての可能性をもつものの、「現状では部活動そのものを受け入れる体制にはなっていない」と指摘している。

以上のように、山口県内の総合型クラブを対象にした研究はいくつか行われてきている。しかし、上述した研究では、定量的な視点から総合型クラブが抱える問題について解明しようとする研究が多く、自由記述に関する分析が十分になされていない。今（1996）は、『自由記述は回答に対する限定が少ないことから、自由な発想、主張が盛り込まれており、問題に対する人々の認識や問題解決のための貴重な情報源である』と述べている。このことから、自由記述を分析することにより、具体的に総合型クラブの実態を把握できると考えられる。以上のことから、本研究では山口県内の総合型クラブを対象とした自由記述の調査結果をもとに、定性的な視点から総合型クラブの現状や課題について把握することを目的とした。

## 2 研究方法

### 2-1 調査時期および調査対象

調査は2022年10月に調査票を用いた郵送法にて実施した。調査対象は山口県内のすべての総合型クラブ（54クラブ）とし、調査票の回収部数は39クラブであった。その中で、今回分析する項目に回答のあった35クラブを対象とした。35クラブの内訳は、奥部（山口市、防府市、長門市、萩市など）7クラブ、東部（岩国市、周南市、光市など）16クラブ、西部（宇部市、下関市、山陽小野田市など）12クラブである。

### 2-2 調査内容

調査項目は、山口県地域スポーツクラブ推進団体連絡会議にて作成された調査用紙をもとに、スポーツ経営学およびスポーツ社会学を専門分野とする大学教員3名で協議のうえ再構成し、設定した。その中で、本研究では「代表的な活動と指導者謝金」、「クラブ自慢」、「クラブ運営に関する自由意見」の自由記述を分析対象とする。

### 2-3 分析方法

「代表的な活動と指導者謝金」の自由記述については、定量化後に単純集計を行った。「クラブ自慢」と「クラブ運営に関する自由意見」については、回答の概要を網羅的に把握するため、山中ほか（2021）の先行研究を参考に、KJ法を用いて回答の分類・カテゴリー化を行った。なお、分類・カテゴリー化を行う際は客観性を担保するため、筆者を含む大学教員3名で実施した。KJ法を用いるにあたっては、アンケートから得られた「クラブ自慢」と「クラブ運営に関する自由意見」についての記述を、筆者がそれぞれの意味のまとまりに分け、ラベルを作成した。その後、筆者と共同研究者とで協議を行い、各ラベルを上位カテゴリーと下位カテゴリーに分類し回答を整理した。最後に、分類・整理したラベルとカテゴリーに関して誤りや相違がないかを共同研究者とともに確認するという手順で分析を行った。

### 2-4 倫理的配慮

「山口県総合型地域スポーツクラブ実態調査」のデータは、個人情報保護の観点から個人・団体を特定できる情報として提示しないことを調査用紙において確認のうえ、承諾された場合のみ調査用紙への回答協力を依頼した。

## 3 結果および考察

### 3-1 クラブの代表的な活動、参加費および指導者謝金

表1は、回答のあったクラブの代表的な活動、参加費および指導者の謝金についてまとめたものである。表1のとおり、「健康体操・フィットネス」を代表的な活動として挙げているクラブが最も多く、次いで「ヨガ・ピラティス」、「ACP・子どもの運動」の順であった。また、活動参加費については平均331.1円であり、指導者謝金は3,408円であった。一方で、参加費を徴収していない教室の数は73教室中17教室、指導者謝金を支払っていない教室の数は73教室中28教室であった。

長積ほか(2003)は安定的なクラブマネジメントを行うためには、見通しのある事業計画と収支計画を立てることが重要であると述べている。その中でもクラブ会費を中心に収入の安定化を図ることが自立したクラブをめざすために重要な要件であるとしている。しかしながら、行政等の公共機関がスポーツや芸術活動を無料や安価なサービスとして提供してきたこと、また、住民がそのようなサービスを受け入れることに慣れ、いわゆる受益者負担の考えが浸透していないこと

が問題であると述べている。本研究の結果では、1回あたりの平均参加費が331.1円であり、参加費なしの活動数が73種目中17種目であることが明らかとなった。これは、文部科学省が行った全国調査(2019)で明らかとなった総合型クラブの平均参加費である1055.3円を大きく下回るものである。これらの結果により、山口県内の総合型クラブの多くは、安定したクラブ経営が行われているとは言い難い現状にあることが分かる。また、無報酬のボランティアとして指導に当たっている指導者が在籍する教室は全73教室中28教室であり、サービスに対する適正な対価が支払われていない状態が常態化していると言える。

### 3-2 クラブ自慢に関する自由記述

表2は、山口県内の総合型クラブに「あなたのクラブの『クラブ自慢』について教えてください。」という質問の結果をKJ法によって分析し、まとめた結果である。今回分析対象とした35クラブのうち29クラブから計87の回答があった。

表1 クラブの代表的な活動、参加費および指導者謝金

代表的な活動(教室・イベント等)	クラブ数	1回あたりの平均参加費(円)	参加費なしの活動数(参加費不明な活動数)	1回あたりの平均謝金額(円)	謝金なしの活動数(謝金不明な活動数)
健康体操・フィットネス	11	412	1(1)	5,697	3(2)
ヨガ・ピラティス	9	521	1(1)	3,800	2(2)
ACP・子どもの運動	7	267	1(3)	4,375	2(2)
水泳	5	不明	1(4)	4,000	2(0)
ソフトテニス・エスキーツテニス等	5	150	2(1)	4,600	2(0)
ダンス	4	625	2(0)	不明	1(3)
グラウンド・ゴルフ	4	不明	2(2)	指導者なし	4(0)
ソフトバレー	4	150	1(1)	指導者なし	4(0)
サッカー・フットサル	4	200	2(1)	800	3(1)
卓球	3	200	1(0)	2,000	1(0)
バドミントン	3	200	2(0)	2,400	2(1)
太極拳	2	500	1(0)	3,000	0(1)
ハンドボール	2	417	0(0)	0	2(0)
文化活動	2	不明	0(2)	不明	0(2)
その他	8	-	-	-	-
計	73	331.1	17(16)	3,408	28(14)

回答クラブ数 54クラブ中34クラブ(有効回答率 63.0%)

表2 KJ法による「クラブ自慢」に関する自由記述

上位カテゴリー	下位カテゴリー	具体的な回答の例（ラベル）
クラブ運営 70 (80.5)	クラブの目的・方向性 20 (23.0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを通じた地域づくり</li> <li>・地域の活性化</li> <li>・過疎集落の中で人と人とのコミュニティの場を提供</li> <li>・アスリートも育てたい</li> <li>・「みんなで創る、支える」</li> </ul>
	設立年数 7 (8.0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成11年設立（24年目）</li> <li>・平成18年に体育協会を母体に設立</li> <li>・1999年に創立し、現在も活動（23年目）</li> </ul>
	企画・イベント 21 (24.1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康麻雀教室</li> <li>・高齢者向けの健康体操</li> <li>・文化教室の取組</li> <li>・「薬草による健康づくり講座」</li> <li>・地域での交流大会を毎年行っている</li> </ul>
	運営スタッフ 3 (3.4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員に女性が多い</li> <li>・役員会議への参加率が高い</li> <li>・仕事をしながらクラブ運営に携わっている</li> </ul>
	クラブの雰囲気 10 (11.5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和気あいあいとした雰囲気</li> <li>・「人」と「コミュニケーション」が自慢のクラブ</li> <li>・関わってくださるすべての方が仲間</li> </ul>
	会費の設定 4 (4.6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動種目に関係なく、年会費12,000円</li> <li>・年会費5,000円（10か月分）</li> </ul>
地域環境 12 (13.8)	地域・行政との連携 5 (5.7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流センターとの連携</li> <li>・山口東京理科大学との連携</li> <li>・地元の体育振興協議会と協力</li> </ul>
	施設・環境 8 (9.2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を拠点に活動</li> <li>・閉校した旧小学校を活用</li> <li>・高度な測定機器</li> <li>・翌年から体育施設の管理、運営を行う</li> <li>・施設面で行政や学校が協力的</li> </ul>
	高齢者の活躍 4 (4.6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員は70歳以上の女性为中心</li> <li>・会長、副会長も80歳を過ぎている</li> <li>・高齢者が意欲的に活動</li> </ul>
指導者 3 (3.4)	指導者の確保 3 (3.4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の指導者の確保</li> <li>・大学教員の協力</li> <li>・指導者が確保できている</li> </ul>
	その他 2 (2.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間ひざ痛で通院していた方の痛みが消えた</li> <li>・休まず毎回参加している</li> </ul>

有効回答数87（数値）は%を示す

表3 KJ法によるクラブの運営に関する自由記述

上位カテゴリー	下位カテゴリー	具体的な回答の例（ラベル）
クラブ運営 39 (47.0)	クラブの目的・方向性 13 (15.7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な位置づけや方向性を持たないまま活動を継続している傾向</li> <li>・山口県ならではの山口県らしい取り組み</li> <li>・競技力向上や大会参加は考えていない</li> <li>・ヒト、モノ、資金、情報、ノウハウを活かした運営</li> </ul>
	設立年数 2 (2.4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型地域スポーツクラブ育成の取組みが始まって20年近く経過</li> <li>・結成23年目</li> </ul>
	企画・イベント 5 (6.0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児から高齢者までの体力向上企画</li> <li>・多種目のスポーツができない</li> <li>・広報活動の難しさ（伝達方法、PR等の困難）</li> </ul>
	会員の確保 7 (8.4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者（会員）の減少</li> <li>・会員の参加意欲の低減</li> <li>・中間世代（働く世代）は他人との繋がりが必要としていない</li> <li>・入会（入部）を待っている子どもがいる</li> </ul>
	財源の確保 3 (3.6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤字経営</li> <li>・財源の確保</li> <li>・経営が厳しい</li> </ul>
	行政との連携 9 (10.8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人化、指定管理に対する助言、指導</li> <li>・市町の意識が低い</li> <li>・市の姿勢や助成の方向性</li> <li>・コーディネートできる人や場所の確保</li> </ul>
地域環境 21 (25.3)	施設・環境 11 (13.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設の開放</li> <li>・使用時間の区別（小中学生と一般）</li> <li>・活動拠点の無償化</li> <li>・施設の利用基準が緩まない</li> <li>・クラブ道具の置き場が難しい</li> </ul>
	少子高齢化 7 (8.4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化により状況が厳しい</li> <li>・高齢者は時間がありクラブ活動に協力的</li> <li>・クラブ会員の高齢化</li> </ul>
	移動手段 3 (3.6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域で公共交通機関がない</li> <li>・移動手段の確保</li> <li>・会員や参加者が移動手段のあるものに限定</li> </ul>
指導者 19 (22.9)	指導者の育成 7 (8.4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者の育成が課題</li> <li>・指導者研修会の実施</li> <li>・地区における指導への協力してくれる人材の確保</li> </ul>
	部活動の地域移行 12 (14.5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員がいないと地域の指導者は関わっていけない</li> <li>・地域移行は会員の維持、拡大のチャンス</li> <li>・国の判断を待つばかりではいけない</li> <li>・岩国モデルの作成</li> </ul>
その他 3 (3.6)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブの持続に不安、苦悩</li> <li>・新型コロナウイルスによる影響</li> <li>・通常の活動（環境）に戻るように</li> </ul>

有効回答数82（数値）は%を示す

KJ法による分類の結果、上位カテゴリーとして、「クラブ運営」、「地域環境」、「指導者」、「その他」の5つのカテゴリーに分類することができた(表2)。その中でも「クラブ運営」についての回答が70(80.5%)と最も多く、次いで「地域環境」が12(13.8%)、「指導者」が3(3.4%)であった。

下位カテゴリーを確認すると、「企画・イベント」が21(24.1%)で最も多く、次いで、「クラブの目的・方向性」が20(23.0%)であった。総合型クラブの設立目的は、「地域のスポーツ振興に寄与すること(JSPO,2024)」であり、その目的を達成するべく、スポーツ教室だけでなく、地域に根差したスポーツイベントを開催している。山口県内の総合型クラブも同様に、それぞれの地域資源を活用したイベントを実施しており、その結果は上記の「クラブ自慢」の分析結果からも読み取ることができる。

### 3-3 クラブ運営に関する自由記述

表3は「あなたのクラブの今後の方向性や県・市町や他団体への要望等、自由に意見を書いてください。」という質問の結果をKJ法によって分析し、まとめた結果である。今回分析対象とした35クラブのうち23クラブから計82の回答があった。

KJ法による分類の結果、「クラブ自慢」の分析結果と同様に「クラブ運営」、「地域環境」、「指導者」、「その他」の5つのカテゴリーに分類することができた(表3)。下位カテゴリーでは、「クラブの目的・方向性」、「部活動の地域移行」、「施設・環境」に関する内容が多く、中でも、少子高齢化や移動手段、指導者(後継者)の不足等のネガティブな記述が多く見られた。

近年、中学校の教育職員の負担軽減を目的に、休日の部活動の段階的な地域移行が進みつつある。しかし、本研究の結果からも明らかとなったように、部活動の地域移行の受け皿となっている総合型クラブは多くの課題を抱えており、存続が危ぶまれるクラブも多数存在している。また、地域移行に直接関与しない場合に

においても、地域で活用できる資源が限られる中で、運営を続けていくことに多くの不安を抱えているクラブの存在が複数明らかとなった。

## 4 まとめと今後の課題

本研究では山口県内の総合型クラブを対象とした調査結果をもとに、自由記述の視点から総合型クラブの現状や課題について把握することを目的とした。

その結果、以下のことが明らかとなった。

- ①クラブの代表的な活動には「健康体操・フィットネス」や「ヨガ・ピラティス」のように個人で参加できるものが多く、球技を中心とした集団でのスポーツ活動は比較的少ない傾向にあった。
- ②総合型クラブの活動への参加費は無料もしくは安価なものが多く、持続可能な活動を進める中で受益者負担の考え方をサービスの提供をする運営側およびサービスを受ける地域住民側に浸透させていく必要がある。
- ③指導者はボランティアで活動している場合が多く、今後部活動の地域移行や多世代が関わり合う活動をしていくうえで、指導者にも十分な謝金(手当て)を支給し、責任とやりがいのもとに指導ができる環境づくりが必要である。
- ④クラブ運営に関する自由記述では、行政との連携や会員の確保など、ポジティブな意見よりも課題や要望に関するものが多くみられた。また、部活動の地域移行や指導者確保など、喫緊の課題も指摘されておりクラブの抱える課題は非常に多くあるといえる。

以上のことから、運営スタッフの後継者不足や指導者不足、少子化による子どもの活動機会の減少、移動手段の確保などさまざまな現状が確認できた。これからの社会において総合型クラブに求められる地域スポーツの役割は非常に大きなものである。地域のことは地域の者が中心となって考え取り組めるようなシステムの構築や総合型クラブの役割の明確化、支援などが

十分になされることを期待したい。

## 付 記

本稿は、国庫補助事業令和4年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業として、至誠館大学萩文化スポーツセンター地域スポーツ研究所が公益財団法人山口県体育協会（現山口県スポーツ協会）から業務委託を受け作成した総合型地域スポーツクラブ実態調査報告書の内容の一部加筆、修正したものである。

本調査にご協力いただいた山口県内の総合型クラブ関係各位、山口県スポーツ協会のみなさまに深く感謝の意を表します。

## 【引用文献】

- 1) 藤田雅文、吉田幸人（2012）「総合型地域スポーツクラブの効果に関する研究」『鳴門教育大学研究紀要』27, 405-414
- 2) 炭谷将史（2012）「総合型地域スポーツクラブを対象とした研究における成果と今後の課題」『スポーツ産業学研究』22（2）, 281-293
- 3) 柴田紘希、清水紀宏（2019）「地域スポーツクラブにおけるミッションとクラブの成長性との関係に関する研究」『体育・スポーツ経営学研究』32, 1-23
- 4) 田代祐子、中西純司（2023）「持続可能な総合型地域スポーツクラブづくりの探究」『立命館産業社会論集』58（4）, 33-54
- 5) 得本啓次（2016）「大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブの持続性に関する研究：コミュニティクラブ東亜の実例研究」『東亜大学紀要』23, 17-28
- 6) 岡崎祐介ほか（2024）「総合型地域スポーツクラブの運営と課題に関する研究—山口県内の総合型クラブと運動部活動の連携に着目して—」『山口県体育学研究』67, 21-29
- 7) 今尚之（1996）「自由記述文の分析に対するキーワード分類法の適用」『言語センター広報』4, 81-90
- 8) 長積仁ほか（2003）「総合型地域スポーツクラブの

育成をめぐる受益者負担の問題～会費設定における金額の意味解釈～」『徳島大学総合科学部人間科学研究』11, 11-22

9) スポーツ庁（2019）「令和元年度 総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果」[www.mext.go.jp](http://www.mext.go.jp)（最終アクセス日 2025.1.9）

## 【参考文献】

- 1) 井澤悠樹、松永敬子（2014）「総合型地域スポーツクラブの集客戦略に関する基礎的研究—ターゲットの理解に向けたライフスタイル測定尺度の開発—」『SSFスポーツ政策研究』3（1）, 150-159
- 2) 井澤悠樹、松永敬子（2023）「総合型地域スポーツクラブ会員における地域愛着の形成過程：会員形態の違いに注目して」『スポーツマネジメント研究』16（1）, 21-41
- 3) 岡村誠、富山栄子（2019）「総合型地域スポーツクラブにおける「クラブオーナーシップ」規定要因に関する研究」『事業創造大学院大学紀要』10（1）, 19-33
- 4) 高松祥平、山口泰雄（2019）「総合型地域スポーツクラブにおける組織文化とスポーツ指導者の組織コミットメントとの関連」『生涯スポーツ学研究』16（1）, 21-32
- 5) 西村貴之、作野誠一（2020）「総合型地域スポーツクラブの発展過程とクラブマネジャーの業務実践との関係性モデルの構築」『体育学研究』65, 367-382
- 6) 田島良輝ほか（2022）「持続性の高い総合型地域スポーツクラブの発展過程：2015年頃に焦点を当てて」『スポーツ産業学研究』32（3）, 283-298
- 7) 中西純司ほか（2011）「「新しい公共」を担う総合型地域スポーツクラブの課題と展望」『福岡教育大学紀要』60, 77-92
- 8) 山中裕太ほか（2021）「大学の水泳授業の全国的実態と授業実施の問題点に関する調査」『大学体育スポーツ学研究』18, 152-161
- 9) 川喜田二郎（2017）『発想法 改版-創造性開発のた

めに-』中央公論新社, 71-117

10) 岡崎祐介ほか (2021) 「総合型地域スポーツクラブ  
至誠館クラブにおける会員調査報告」『至誠館大学研究  
紀要』8, 159-164

11) 山口県スポーツ協会「総合型地域スポーツクラブ」  
<https://yamaguchi-sports.jp/sougougata>（最終アクセス日  
2024.7.15）